義務教育課だより　９月号

令和４年度全国学力・学習状況調査

４月下旬に実施された「令和４年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。今年度は、国語、算数・数学に加え、４年振りに理科の調査が行われました。御承知のとおり、この調査は、小学６年生と中学３年生を対象に、「今後の学びの基礎となる学習内容」や「実生活において不可欠な知識・技能」等の習得状況のほか、学習意欲や学習環境等を把握し、その結果を踏まえて、学校や地域で課題を整理し、教育の改善を図ろうとするものです。そのため、該当学年や該当教科の教員だけでなく、一人一人の教員が結果を十分に受け止め、共通理解を図り、今後の教育活動に生かしていく必要があります。

今年度の教科調査結果は、次のとおりです。

＜Ｒ４全国学力・学習状況調査　教科調査結果＞〔平均正答率〕

		国語(%)	算数・数学(%)	理科(%)
小	県	６６	６４	６４
	国	６６	６３	６３
中	県	６９	５１	４９
	国	６９	５１	４９

本県が知・徳・体をバランスよく育み、学校教育の質の保証・向上を目的として目標に掲げた、教科別の平均正答率は、小・中学校ともに、全ての教科（国語、算数・数学、理科）において、全国平均以上の結果を維持できています。小・中学校ともに全ての教科で全国平均以上を達成しているのは本県を含めて１１都府県のみであることを考えると、この結果は、コロナ禍にあっても、一生懸命学習に取り組み、着実に学力を身に付けている子供たちの頑張りはもちろんですが、日々授業改善に真摯に取り組んでいただいている県内の先生方の御努力のおかげであると捉えています。

一方、危機感ももっています。今回の特徴として、中学校の新学習指導要領の内容を問う初めての調査であり、新しい傾向の問題が多数出題されましたが、本県の生徒の解答状況には一部課題が残る結果となりました。これは、昨年度、中学校において、新学習指導要領が全面実施されたばかりであること、１人１台端末の導入によるＩＣＴ活用や新型コロナウイルス感染症への対応に追われたことなどが理由として考

えられますが、これは全国同様のことで、本県では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が十分に行われていないからではないでしょうか。例えば、次の中学校理科の問題では、予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの方法について検討し、見通しをもつことができるかどうかをみる問題が出題されました。県の平均正答率は５３．５％で全国を下回っており、このような思考力を問う新しい傾向の問題への対応に課題が見られます。他にも、中学校数学でも新たに追加された箱ひげ図について、箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶといった問題が出題されました。各校でじっくり見て、分析してみてください。

中学理科・大問８-(2)　【県平均正答率】５３．５％　【全国平均正答率】５５．１％

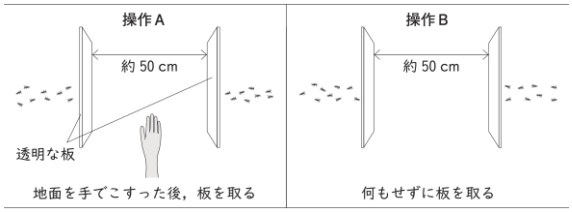
予想と異なる結果が出る場合について考える場面

もし，【結果の予想】と異なり，操作Ａも操作Ｂも行列をつくる結果になった場合は，どのように考えればよいですか。

私は，嗅覚による情報をもとにしていないと考えます。

私は，アリの種類を変えて同じ操作で確かめるとよいと考えます。

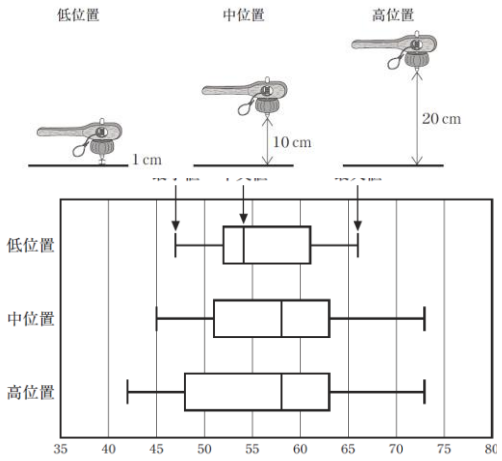
私は，操作Ａで，［ R ］ことができなかったのではないかと考えます。



（2）［ R ］に当てはまる適切な言葉を書きなさい。

＜正答＞　においを消す

中学数学・大問７-(2)　【県平均正答率】４３．４％　【全国平均正答率】４４．１％



このとき，箱が示す区間にふくまれているデータの個数と散らばりの程度について正しく述べたものを，下のアからエまでの中から１つ選びなさい。

ア　データの個数は中央値を中心とする全体の約半数であり，データの散らばりの程度は，高位置よりも中位置の方が小さい。

イ　データの個数は中央値を中心とする全体の約半数であり，データの散らばりの程度は，高位置よりも中位置の方が大きい。

ウ　データの個数は高位置よりも中位置の方が少なく，データの散らばりの程度は，高位置よりも中位置の方が小さい。

エ　データの個数は高位置よりも中位置の方が少なく，データの散らばりの程度は，高位置よりも中位置の方が大きい。

＜正答＞　ア

次に、児童生徒質問紙調査の結果です。

〈将来の夢や目標について〉

○　将来の夢や目標をもっている児童生徒

	Ｒ４（全国）	Ｒ３（全国）	Ｒ１（全国）
小学校	82.7%　(79.8%)	82.1%　(80.3%)	85.4%　(83.8%)
中学校	70.3%　(67.3%)	71.3%　(68.6%)	73.7%　(70.5%)

〈読書について〉

○　平日に、１日30分以上読書をしている児童生徒

	Ｒ４（全国）	Ｒ３（全国）	Ｒ１（全国）
小学校	33.6%　(36.4%)	36.1%　(37.4%)	38.4%　(39.8%)
中学校	27.6%　(27.3%)	28.8%　(28.9%)	28.0%　(27.0%)

〈ゲーム時間について〉

○　平日に、１日１時間以上テレビゲームをしている児童生徒　※Ｈ３０、Ｒ１・・・本質問項目なし

	Ｒ４（全国）	Ｒ３（全国）	Ｈ２９（全国）
小学校	73.8%　(76.1%)	73.6%　(75.9%)	52.5%　(55.1%)
中学校	68.1%　(71.3%)	77.0%　(79.8%)	57.9%　(58.5%)

「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均に比べて高くなっており、良好な状況が続いています。これについて県教委では、各学校において、継続したキャリア教育が推進されている成果だと考えています。

一方、「平日に、１日 30 分以上読書をしている」と答えた児童生徒の割合は、中学校は全国平均を若干上回っているものの、小学校は大きく下回っており、引き続き、読書活動の充実が本県の課題として挙げられます。現在、ＣＢＴシステムと連動した、電子版読書通帳「みきゃん通帳」Ｗｅｂアプリを開発中です。小１～中３の全ての児童生徒の読書意欲を喚起するとともに、読書傾向への自覚を促すことで幅広い分野への興味をもたせ、読書活動を推進し、知的好奇心を高められるものと期待しています。

また、「平日に、１日１時間以上ゲームをしている」と答えた児童生徒の割合は、昨年度と比べ、中学校で大きく減少しています。「１日当たりのゲームの時間が長いほど、各教科の平均正答率が低い傾向がみられる」と国は分析しており、引き続き、学習指導と併せて生活指導に取り組み、基本的な生活習慣を身に付けさせることも必要です。

急激に変化する時代の中で、一人一人の子供が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しなが

ら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育むためには、学習指導要領を着実に実施することが求められます。子供たちの実態に基づいて、効果的に学習を進めるためには、教材・教具や学習ツールの一つとしてＩＣＴを最大限に活用し、授業改善につなげることが必要不可欠です。今年度から本格運用となった、県独自のＣＢＴシステムである「えひめＩＣＴ学習支援システム（ＥＩＬＳ：エイリス）」の活用や１人１台端末等を日々のドリル等に活用したり、単元においてどのような資質・能力を育成するために、どの場面で使用するのが効果的か考えながら活用したりすることが教育の質を向上させるための大きな鍵となります。ぜひ、ＥＩＬＳを有効活用し、各学校の課題克服に努めてほしいと思います。

全ての子供の可能性を引き出す学びの実現に、最善を尽くしていきましょう。